

教育実践報告

理工系大学教職課程における“英語でディベート”の試み

守 一雄

A Brief Report on Debates in English as Student Practices in a Teaching License Course of a University Specialized in Agriculture and Technology

MORI Kazuo

要 旨

前報告¹⁾では理工系大学教職課程のうちの4科目を英語で教える試みについての実践を述べた。この4科目は半期ごとに2年間をかけて担当するもので、3科目分の英語で教える実践を踏まえて、4科目目では履修学生が行なうディベートも英語で行なうようにした。ここでは、学生による英語ディベートを導入した「生徒指導論」の授業について報告する。日本人学生が英語でもディベートできるようにするために、ディベートの進行に使われる定型表現を台本のように用意し、またディベートに有用と思われる英語表現例をプリントとして配布した。ディベート以外の授業は前報告と同様に行なった。最後に学生からの評価と教員による自己評価と将来展望を述べた。

キーワード

英語での授業 英語でのディベート 台本の活用 教職課程 言語技術

目 次

- I. はじめに
- II. 学生に英語でディベートさせる理由
- III. 英語でディベートの実践
- IV. ディベートを英語で行なったことの評価
- V. 反省点と将来展望

文献

I. はじめに

東京農工大学では農学部・工学部それぞれの教職課程専任教員が教職課程の主要な8科目を4科目ずつ分担し、半期に1科目ずつ2年間で4科目を1サイクルとして担当している。東京農工大学の教職課程履修者は農工の両学部を合わせて毎年ほぼ50名程度である。これら4科目を隔年開講で1、2年次生が履修するため、各授業の履修者は約100名となるが、各学期に同じ授業を農工のキャンパスで開講するため、履修者数はほぼ半数の50名程度となる。

前報告¹⁾では、報告者自身が担当する4科目それぞれを英語で授業する計画と意義を述べ、実際に授業を行なった1年目の2科目（平成27年度前後期）についての実践報告を行なった。本報告では、2年目の後期の「生徒指導論・進路指導論」（以下では「生徒指導論」と略記）についての続報を述べる。この授業では、担当講師による英語での教示に加えて、学生によるディベートも英語で行なうことを目指した。

II. 学生に英語でディベートさせる理由

前報告¹⁾の最後に、1年間の授業を英語でやることが期待通りの効果を挙げていたことを述べ、英語化をさらに進めるために、学生の読み書き聞き話すという4つの活動のうちの1つを英語で行なわせることの可能性について見通しを述べた。具体的には、課題図書・読後レポート・ディベートのうち、学生に英語でやらせることが可能なのはディベートであると考えた。それは、多分に消去法的な選択であるが、担当講師に適切な本を選択する読書経験がなく、英語で書かれた学生のレポート約100人分を翌週までに添削して返却するだけの英作文能力もないからであった。

一方で、ディベートは形式が決まっているために、

定型の表現が繰り返し使われることから、そうした定型表現を覚えてしまえば発言ができる。また、同じ表現を繰り返し使うことで、話すことの訓練にも聞くことの訓練にもなる。さらには、学生たちの持つ英語学習経験はほとんど同じであるため、使える英語表現は限られている。ネイティブの英語話者とディベートするわけではない。学生たちは互によく知っている英語を駆使してなんとか自分の言いたいことを伝えようとするはずである。どんなに流暢に英語が話せても、相手に理解してもらえないのではディベートにならない。審判役も学生なのだから、審判にわからない英語を使っても判定に有利にはならない。つまり、学生の英語ディベートは「学生なりの英語力の範囲内で」それなりにできるはずだと考えた次第である。

今までに習った英語を活用して意思疎通を試みることは、海外に行って、英語だけしか通じない環境に置かれれば誰もががすることである。そして、それこそが言葉を習得する最も自然で効果的なやり方であることは、海外生活経験のある人が皆それなりに英語を使えるようになっていくことが証明している。だから、学校での英語学習でも「今までに習った英語を活用して意思疎通を試みる」ことが推奨される。しかし、現実には日常生活の中でそうした機会はほとんどない。日本語が使える状況で、あえて英語で意思疎通を図る必要性はないからである。

こう考えてみると、教職課程の授業で学生たちに英語でのディベートを経験させることは、大学での英語教育にも貢献できることになる。学生たちは中学校高校で6年間の英語学習をしてきているが、留学でもしない限りは、英語を意思疎通の手段として使う経験をほとんどしてきていない。学生たちにとって、英語はテストで良い成績を取るために勉強するものであって、意思疎通のための道具であることを実感する機会がほとんどない。高校までの英語学習は大学入試に合格するためであり、大学入学後は卒業単位を満たすためか、大学院入試の

ためでしかない。そこで、学生が「英語でディベートなんかできない」と拒絶しないよう、また英語ディベートへのモチベーションを高められるよう、まず学生に「英語でディベートすることの可能性と利点」について説明し、十分に納得した上で、新しい試みに参加してもらうことの同意を取り付けた(図1参照)。

Ⅲ. 英語でディベートの実践

平成28年度後期開講の「生徒指導論」の授業(資料1)で学生による英語ディベートの実践を行った。履修学生は東京農工大学農学部と工学部とで教職課程を履修している1、2年生であった。前報告¹⁾の履修学生のうち当時の1年生が2年生に進級してきており、これらの学生は、すでに1年半、英語による授業と日本語でのディベートを履修してきた。約半数を占める1年生も、前期には同じ講師による英語の授業を履修済みであった。前報告での授業と同様に全部で12回の授業のうちの6回をディベートの回にあてた。学生たちは、それぞれのディベートの週までに指定された本を読んで、読後レポートを書いてくることが課題とされた。課題図書とレポートはどちらも日本語であった。

初回の授業のオリエンテーションの中で、今期の授業では講師が英語で授業をすることに加えて、学生のディベートも英語でやることを宣言した。その際、学生が英語でディベートすることの意義を説明し(図1)、口頭ではあるが、学生たちの了承をえて、英語ディベートを導入することを決めた。

英語でのディベートは次週から始まるため、英語でのディベートを行なうための「台本」プリント(資料2)を配布し、「初回はこれを見ながらやってもよい」ことを告げ、それぞれの英文を次回までによく読んでくるよう指示した。これに加えて、ディベートでよく使われる表現を日本語と対応させたプリント(資料3)も配布した。なお、これらの指示も英語で行なった。

1: 英語を使う練習になる。

ディベートでは「英語で同じ表現を繰り返し使う」ので、英語を使う練習になる。
ex. 肯定派の決まり文句
I'd like to argue for the proposition.

英語の授業で英語を学ぶのではなく、「相手を説得するために英語を使う」ことで英語を学ぶ。
専門科目を含む他の授業ではできないこと。

2: みなと同じパターンを使う。

英語が得意な学生が難しい表現を使っても、伝わらなければ意味がない。
知っている表現でいかに上手く相手を説得するかを競う。

相手が難しい英語を使ったら、「Sorry. I don't understand what you mean.」と答えれば良い。

3: ロ下手でも勝てる。

大事なものは論理であり、英語の上手さではない。
日本語でロ下手な人でも議論に勝てるように、英語が下手でもディベートで勝てる。

審判も英語が得意なわけではない。
審判に理解できない難しい英語を使っても、勝てない。だって、理解できないから。

英語ディベートの根拠

1: 英語を使う練習になる。
→まったく新しい学習法
2: みなと同じパターンを使う。
→誰にでもできる学習法
3: ロ下手でも勝てる。
→知的で楽しい学習法

この授業でしかできない。
私のこの大学での最後の授業。
やらせて下さい。お願いします。

図1. 英語ディベートの利点を説明したスライド
(平成28年度「生徒指導論・進路指導論」から)

表1 英語で授業を行なった教職課程4つの授業の「授業アンケート」質問項目の評価平均値の比較

	農学部				工学部			
	平成27年		平成28年		平成27年		平成28年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業内容は良く理解できた	4.26	4.07	4.14	4.50	4.12	4.02	3.84	4.25
授業内容に興味・関心を持てた	4.41	4.24	4.37	4.51	4.08	4.25	3.74	4.25
この授業に積極的に取り組んだ	4.02	3.74	3.96	4.23	3.97	3.96	3.72	3.80
教員の声は明瞭でよく聞こえた	4.74	4.45	4.64	4.75	4.37	4.47	4.26	4.53
黒板・パワーポイントの使い方はよかった	4.49	4.39	4.44	4.80	4.34	4.29	4.30	4.50
教員の授業に対する意欲を感じた	4.66	4.37	4.50	4.78	4.36	4.33	4.18	4.55
教員は適切な態度・言葉遣いであった	4.51	4.44	4.28	4.70	4.17	4.14	4.24	4.50

なお、第4回目は取り扱うテーマの内容が対立的な視点でのディベートに適さないものであったため、ディベートの代わりにブレインストーミングを英語で行なった。ブレインストーミングについても英語での「台本」(資料4)を用意したが、回数も1回のみであり、ここではその教育上の効果等についての評価は行なわない。

IV. ディベートを英語で行なったことの評価

1. 学生は英語でディベートできていたか

当該授業は木曜・金曜の6コマ目(18:15-19:45、さらに23分延長して20:08まで)に開講であったため、ほとんどの教室が空き教室であった。そこで、学生たちのディベートは、小グループごとに空き教室に移動して行なわせることとしてきた。その際、日本語でディベートを行なわせていたときから学生のディベートの様子を観察しに行くことはしなかった。その理由は、こうした授業を始めるようになった20年以上前に気づいたことがだが、講師がいると学生が構えてしまい、ディベートがうまくいかないことが多かったからである。当初は「講師がいないと学生が真面目にディベートに取り組まないのではないか」という疑いから、いくつかのグループ

の様子を覗きに行ったりしたが、講師の登場によって学生が発言を止めたり学生たちの注意が講師に向けられたりして、ディベートが中断されてしまうことが多々あった。そこで、ディベート中の学生の様子を見に行くことは控えることにしてきた。

今回の授業でも、ディベート中の様子を観察することはしなかった。それゆえ、学生たちがどの程度ディベートを英語でやっていたのかについての評価はできない。それでも、工学部の授業は縦長の座席数200を超える教室で行ない、ディベートも1グループはこの教室に残って行なう形式だったため、最後列で読後レポートの添削をしながら、ディベートを傍聴することはできた。そのわずかな傍聴例からは、学生は少なくともできるだけ英語でディベートをやろうと奮闘している様子であった。どうしても英語ではうまく表現できないときに、仕方なく日本語で話してしまう場合がかなりあった。ただし、誰かが日本語を使ったことでそのままズルズルと日本語ディベートに移行してしまっただけでなく、話者が代わったり、次のセッションに移ったりすると、また英語でのディベートに戻っていった。つまりは、当初の予測通り、学生たちは「自分たちにできる範囲で英語ディベートをする」というやり方になっていた。

グループに分かれてのディベート終了後には、教室に戻ってグループごとの勝敗の報告や、講師によるまとめがなされた。第1回と第2回のディベート後

には、学生たちに「英語でちゃんとディベートできたかな?」と尋ねてみたが、学生たちの自己評価でもそれなりにディベートが成立しているようであった。少なくとも、「とてもまともなディベートにならないので、英語はやめて元の日本語でのディベートをしたい」という要望はまったくなかった。

2. 授業アンケートでの量的な評価

東京農工大学では各学期末に「学生アンケート」による授業評価を行なっている。前報告では、この授業アンケートの結果について、英語で授業をした平成27年度前期の「教育課程論」の評価結果を、日本語で行なっていた平成25年度の同じ授業の評価と比較した。2つの年度で授業アンケートの質問項目が変わっていたため、両方に共通する7項目を選んで比較したが、やはり英語で授業することで、ほとんどの項目で評価の平均点が下がっていた。今回は、前報告のように2年前の同じ授業(ディベートを含めすべて日本語で授業)と比較するのではなく、「英語で授業+日本語でディベート」のスタイルをとった平成27年度前後期および平成28年度前期の授業と今回の授業への評価結果を比較してみることにした^{2,3)}。

その結果、表1に示すように、ディベートも英語で行なうようにした平成28年度後期の「生徒指導論」の学生の評価は、農学部でも工学部でも他の3期分の評価より上昇していた(表1では平成28年度後期の評価結果のみゴチックで示した)。もっとも、この授業アンケートは「ディベートを英語でやること」の評価に適した質問項目が用意されていたわけではなかったため、違いを検出することには適さない項目も多かった。そうした中で、学生自身の意欲関心を問う「授業内容に興味・関心を持たた」および担当講師に意欲が感じられたかを問う「教員の授業に対する意欲を感じた」という質問項目の評価が農工ともに4つの授業の中で最も高くなっていることは特筆に値する。

「学生アンケート」では各質問項目の選択肢を選んで回答する他に、裏面に自由記述の欄が用意されている。残念ながら、そのための特別な時間を割いて自由記述をしてくれる学生は少ない。そうした中で、わずか1例ではあるが、英語でのディベートを肯定的に評価していた記述があったので紹介しておく。

「授業が楽しかったです。英語ディベートも最初は困惑しましたが、日本語のときよりも楽しかったです。機会があればもう一度授業を受けたいです。」(農学部履修生)

以上から、学生のディベートを英語で行なうようにした試みは学生に好意的に受け止められており、学生たちの意欲を高める効果を示したと言えるだろう。

V. 反省点と将来展望

「英語でディベートすることの利点」(図1)のパワーポイントを作ったときには「まさにこれこそが大学生の英語学習の最適の方法だ」と悦に入ってしまったのだが、現実はそう甘くはなかった。わずか数枚の「台本」を配るだけで、そう簡単に英語でディベートができるようになるわけでもない。そもそも著者の専門は英語教育ではないし、この授業の目的も学生に英語を学ばせることでもない。それでも、大学での英語教育を語学としての英語の時間だけで行なうのではなく、専門科目を「英語で」学ぶことの重要性には確信を持っている。今後は、英語教育の専門家と共同で、より望ましい形式での大学授業を実践していきたいと考えている。

英語でディベートを行なうことの意義や教育効果についてはすでに多くの先行研究があり、そのためのマニュアル本も出版されてきている⁴⁻⁶⁾。しかし、今回の授業を計画し準備するにあたって、そのまま台本として使えるような英語ディベートのプロトコルを書いたものは見つからなかった。この授業のために準備したプロトコルが活用され、より良いも

のに改訂されていくことになれば大変喜ばしいことである。

謝辞

この授業の準備中の平成28年9月15日に東京農工大学大学教育センター主催の「英語で授業する”スキル向上研修」が行なわれた。その際に講師を勤めたBritish Council JapanのRob先生に学生に配布するディベートの英語表現について校閲をお願いした。後日、Peter Brereton先生による校閲文書が送られてきた。ここに記して両氏に感謝の意を表す。また、その依頼の仲介をくださった東京農工大学大学教育センター准教授岩田陽子先生にも感謝したい。ただ、校閲された英語表現は私の判断で学生への教育効果などを考慮して、さらに修正を加えてある。その修正が不適切だったり、誤りだったりするかもしれない。そこで、資料2・3に示された英文のすべてがBritish Council Japanの校閲を得た「正しい表現」であるわけではない。

最後になったが、「定年前の最後の授業だから」ということで、著者のわがままな提案を快く受け入れ、英語でのディベートに積極的に取り組んでくれた東京農工大学の教職課程履修生に感謝の言葉を述べたい。

Thank you for your diligent participation in the English debate sessions. You did it much better than I had expected. You were really great!

文献

- 1) 守 一雄, 「理系大学の教職課程における“英語で授業”の試み」『大学教育ジャーナル』東京農工大学 第12号, 43-50, (2016).
(以下のURLからPDFコピーを入手できる。<http://www.avis.ne.jp/~uriuri/kaz/profile/papers/TeachingLicenseCurriculum2016.pdf>)
- 2) 東京農工大学 大学教育センター, 「2015年度 学生による授業アンケート集計報告」(2016).
- 3) 東京農工大学 大学教育センター, 「2016年度 学生による授業アンケート集計報告」(2017).
(http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/chousa/jyugyou/ 閲覧は学内からのみ可能)
- 4) 小西卓三・菅家知洋, 『Let the Debate Begin! 英語で学ぶ論理的説得術』東海大学出版会(2007).
- 5) 松本 茂, 『英語ディベート実践マニュアル』バベルプレス(1987).
- 6) 中嶋洋一, 『生徒が熱狂・教室が騒然 英語のディベート授業 30の技』(英語授業改革双書) 明治図書出版(1997).

資料1 平成28年度後期「生徒指導論・進路指導論」のシラバス

平成28年10月6-7日

平成28年度「生徒指導・進路指導論」講義計画

守 一雄

(1) 講義概要

生徒指導の意義と課題、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方、進路指導の理論と方法などについて、テレビドラマ『TEAM』を題材に学びます。学校内での生徒指導の狭い範囲に留まらず人生や幸福についても考える機会を設けます。

(2) 教科書

教科書は文部科学省『生徒指導提要』(教育図書 ¥298)を使います。特に教科書に沿った授業はしませんが、基本的な知識の整理に使って下さい。

(3) 副読本

以下の副読本を授業で使います。受講生は、決められた期日までに本を読み、読後レポートを提出することが義務づけられます。副読本は必ず購入して下さい。

- ①文部科学省 『生徒指導提要』教育図書(¥298)
- ②岩本 茂樹 『先生のホンネ』光文社新書(¥821)
- ③尾木 直樹 『いじめ問題をどう克服するか』岩波新書(¥842)
- ④齋藤 環 『社会的ひきこもり』PHP新書(¥713)
- ⑤コーブランド他 『モテる技術』『愛させる技術』ソフトバンク文庫(¥998)
「品切れ」のため別途指示をします。生協では残りの5冊を購入して下さい。
- ⑥海老原 嗣生 『雇用の常識 決着版』ちくま文庫(¥842)

【副読本は10/14までに購入すること。生協は残部を返品します。】 合計約¥5,000

(4) ディベート

講義のうち6回をディベートに充てます。テーマは副読本の内容に関するものを決めます。【今期の授業は、講師の講義だけでなく、隔週のディベートも英語で行ないます。やり方については別配布の『Protocols for debate sessions』を読んで下さい。】

(5) Q&Aタイム

生徒指導は「人の生き方」に関わる「正解のない」「際限のない」取り組みです。簡単に答の出せない問題だからこそ、履修学生との質疑をたくさん行ないたいと考えています。そのために従来のクイズに代えて「Q&Aタイム」を作りました。

(6) 単位認定基準

ディベートに5回以上出席し、すべての読後レポートを提出することを単位認定の条件とします。

(7) 講義日程 (後期) 前期同様に一回の授業時間を113分とし、12回とします。

10/6-7	(1) オリエンテーション・英語ディベート	Q&Aタイム	[英語ディベート]
13-14	(2) ディベート① (生徒指導意義) 読後R(1)	Q&Aタイム	[8章4節資質の涵養]
20-21	(3) 少年非行と生徒指導 【TEAM①少年非行】	Q&Aタイム	[6章4節少年非行]
27-28	(4) ディベート② (校則の是非) 読後R(2)	Q&Aタイム	[7章1節校則]
11/10-4	(5) 学校といじめ 【TEAM②いじめ】	Q&Aタイム	[6章6節いじめ/少年犯罪]
17-18	(6) ディベート③ (いじめ) 読後R(3)	Q&Aタイム	[いじめの確率モデル]
24-25	(7) 不登校/ひきこもり 【TEAM③ひきこもり】	Q&Aタイム	[6章12節不登校]
12/1-2	(8) ディベート④ (幸せの条件) 読後R(4)	Q&Aタイム	[幸福条件プレスト]
8-9	(9) 恋愛 【TEAM⑤援助交際】 ゲーム実習	Q&Aタイム	[雄雌戦略ゲーム]
15-16	(10) ディベート⑤ (恋愛ゲーム) 読後R(5)	Q&Aタイム	[適齢異性]
22-23	(11) まとめ 【TEAM⑥家庭との関係】	Q&Aタイム	[8章家庭との連携]
1/5-6	(海外出張のため休講)		
12-13	(DNC試験準備のため休講)		
19-20	(12) ディベート⑥(進路指導) 読後R(6) 期末テスト		[進路・就職]
			【読後レポート提出最終期限】

資料2 平成28年度後期「生徒指導論・進路指導論」のディベートの進行方向 台本

平成28年度「生徒指導論」配布資料(2016. 10. 6-7)

Protocols for debate sessions ディベートの進行方法

1) Start: First Preparation Time (10 min) ディベート開始から準備タイムまでの司会者の台詞

CHAIR: Good evening. I'm chair of today's debate. And, these are judges.
(司会) The proposition for the debate is that we should (proposition : 演題)
[To Affirmative Team] Your team is in favor of this proposition, and will be arguing FOR the idea. (in favor of ... : ...に賛成) (argue FOR... : ...に賛成論を述べる)
[To Negative Team] Your team opposes the proposition, and will be arguing AGAINST the idea.
You will now have ten-minute preparation time. Please start now.
(After nine minutes)
One minute left for preparation.

2) Opening Statements (6 x 1 min) 冒頭陳述1分間での台詞

CHAIR: The preparation time is over. We will begin the opening statement session.
Each team will explain three reasons why you favor or oppose the proposition.
Each speaker has a maximum of one minute.
We will start with speaker in favor, followed by an opposing one.
After that, we will repeat the same procedure for the second and third speakers from both teams.
Okay. The first speaker in favor, please.
A1 Thank you, Chair. I'd like to argue FOR the proposition that we should
One of the reasons why we favor the proposition is that
[]
CHAIR: Thank you, first speaker. Now, the first opposing speaker, please.
N1 Thank you, Chair. I'd like to argue AGAINST the proposition that we should
One of the reasons why we oppose the proposition is that
[]
CHAIR: Thank you. Now, the next one from the team in favor, please.
A2 Thank you, Chair. I'd like to argue IN FAVOR OF the proposition.
A second point we support the idea is that
[]
CHAIR: Thank you. Now, the next one from the opposing team, please.
N2 Thank you, Chair. I'd like to argue why we are OPPOSED TO the proposition.
A second point we oppose it is that
[]
CHAIR: Thank you. Now, the final speaker from the team in favor, please.
A3 Thank you, Chair. I'd like to argue FAVORING the proposition.
The third supporting reason is that
[]
CHAIR: Thank you. Then, the final speaker from the opposing team, please.
A3 Thank you, Chair. I'd like to argue why we are OPPOSING the proposition.
The third opposing reason is that
[]

3) Second Preparation Time (5 min)

CHAIR: Now, we have five more minutes' preparation time. Please start now.
(After four minutes)
One minute left for preparation.

4) First Cross-Examination: Negative Team (5 min)

CHAIR: The preparation time is over. We will begin the first cross-examination session.
The opposing team will use five minutes to cross-examine the affirmative team.
Okay, ready? The opposing team, please start questioning.
Nx: I'd like to ask a question to the first speaker.
[]
I'd like to examine the second point posed by the affirmative team.

[]
I'd like to inquire about the third point posed by the affirmative side.
[]

CHAIR: (After four minutes)
One minute left for cross-examination.

5) First Cross-Examination: Affirmative Team (5 min)

CHAIR: Ok, your time is up.
The team in favor will now have five minutes to cross-examine the opposing team.
Okay, ready? The affirmative team, please start questioning.

Ax: I'd like to ask a question to the first speaker.
[]
I'd like to examine the second point posed by the negative team.
[]
I'd like to inquire about the third point posed by the opposing team.
[]

CHAIR: (After four minutes)
One minute left for cross-examination.

6) Third Preparation Time (5 min)

CHAIR: Now, we have five more minutes' preparation time.
Please start now.

CHAIR: (After four minutes)
One minute left for preparation.

7) Second Cross-Examination: Negative Team (5 min)

CHAIR: The preparation time is over. We will now begin the second cross-examination session.
The opposing team will use five minutes to cross-examine the team in favor.
Okay, ready? The opposing team, please start questioning.

Nx: Let me ask one more question to the first speaker.
[]
I'd like to examine further the second point posed by the affirmative team.
[]
I'd like to inquire about the point the first speaker answered during the first session.
[]

CHAIR: (After four minutes)
One minute left for cross-examination.

8) Second Cross-Examination: Affirmative Team (5 min)

CHAIR: Okay, your time is up.
The affirmative team will now have five minutes to cross-examine the opposing team.
Okay, ready? The team in favor, please start questioning.

Ax: Let me ask one more question to the first speaker.
[]
I'd like to examine further the second point posed by the opposing team.
[]
I'd like to inquire about the point the first speaker answered during the first session.
[]

CHAIR: (After four minutes)
One minute left for cross-examination.

9) Final Preparation Time (3 min)

CHAIR: Now, we have the final three-minute preparation time for the concluding statement.
Please start your preparation now.

CHAIR: (After two minutes)

One minute left for preparation.

10) Concluding Statement: Negative Team (1 min)

CHAIR: The preparation time is over. We will now begin the concluding session.
The leader of the opposing team, please conclude your argument within one minute.
Okay, ready? The opposing team, please start.

N4: Thank you, Chair. I will conclude our argument.
We posed three reasons why we opposed the proposition. They were, 1), 2), and 3).
The first point was not denied by the affirmative team.
The second and third points were refuted but not fully negated.
Therefore, the first point is effective for our argument.
Meanwhile, the affirmative team posed three reasons.
We successfully refuted the first and second ones.
The first point was However, it did not support the proposition.
The second point was It was not adequate for the proposition, either.
The third point was It was not completely negated, but it was inefficient/irrelevant for the proposition.
To sum up, we have argued against the proposition with one firm reason, and counter argued all the reasons posed by the affirmative team.

11) Concluding Statement: Affirmative Team (1 min)

CHAIR OK, your time is up. The team in favor, please conclude your argument within one minute.
Okay, ready? The team in favor, please start.

A4: Thank you, Chair. On behalf of the affirmative team, I will conclude our argument.
We posed three reasons why we favored the proposition. They were, 1), 2), and 3).
The first point was not denied by the negative team.
The second and third points were refuted but not fully negated.
Therefore, the first point is still effective for our argument.
Meanwhile, the opposing team posed three reasons.
We successfully refuted the first and second ones.
The first point was However, it did not disprove/discredit the proposition.
The second point was It was not an effective counter argument, either.
The third point was It was not completely refuted, but it was trivial issue for the proposition.
To sum up, we have argued in favor of the proposition with one sound reason, and we have refuted all the issues posed by the opposing team.

12) Judgment

CHAIR Thank you to all the debaters. We will make our decision after discussion among the judges.

CHAIR Well, the judges have made their decision.
They have judged that the affirmative (negative) team won the debate.
---The decision was unanimous. All the judges voted for the affirmative (negative) team.
---It was a split decision. Two judges voted for the affirmative (negative) team, and one voted for the other.
Each judge will explain their decision in a few minutes.

J1: I voted for the team in favor (the opposing team). I found they argued more persuasively.
[]

J2: I voted for the affirmative (negative) team, too. They used the cross-examination time better than the opponents.
[]

J3: I voted for the opposing (affirmative) team. I found they argued more effectively/logically.
[]

資料3 平成28年度後期「生徒指導論・進路指導論」の英語ディベートの有用表現

平成28年度「生徒指導論」配布資料(2016. 10. 6-7)

Useful Expressions for Debate ディベートに使える表現

There are three examples for each occasion. 状況ごとに3つずつ例を用意しました。

1) When You Don't Understand 相手の英語が理解できないとき

I beg your pardon. (Pardon? Pardon me?) もう一度言って下さい。(えっ、何て言ったの?)

Sorry, but I don't understand what you say. Could you repeat it? ちょっと何だかわからなかった。もう一度言って。

Sorry, I cannot follow your argument. Would you explain it in other expressions?

ちょっと、言っていることがわかりません。別の表現で言って下さい。

2) Asking a Further Explanation 相手にさらなる説明を求めるとき

Could you clarify what you said? もうちょっと説明して下さい。

Would you give us some examples? 何か例で説明して。

Can you paraphrase it? 別の表現で言ってみて。

3) When You Have Difficulties Expressing Your Idea 上手く説明ができないとき

Well, let me say it in another way. つまり、言いかえると。

I'd like to explain it by giving an example. 例で説明すると。

Sorry, I'm confused. I quit this argument. ちょっと、わからなくなった。これは止める。

4) If You Don't Know the Right English Expressions 英語で上手く表現できないとき

Let me use Japanese instead; we need 有給休暇 even for students. 日本語なら、学生も有給休暇が必要ってこと。

Does anyone know how to say 推定無罪 in English? 誰か「推定無罪」英語で何て言うかわかる?

What does "Schizophrenia" mean in Japanese? 「Schizophrenia」って、日本語で何?

5) Asking Whether You Made Yourself Understood 相手の理解を確認するとき

Do you understand what I said? ご理解いただけましたか?

Can you follow me? ボクの言ってることわかるか?

Was my argument clear? わかってくれたかな?

6) When Your Opponents Misunderstand You 相手が誤解しているとき

I'm afraid you have misunderstood what I said. ちょっと誤解されたみたいだ。

You did not get what I said. 私の言ったことが理解されてない。

Sorry, you misunderstood me. ごめん、それ誤解だ。

7) Make It Sure What They Said 相手の言ったことを確認したいとき

Did you mean ...? 「。。。」ってこと?

May I repeat what you said that ...? 繰り返すけど、「。。。」っていうこと?

Am I correct to understand you are saying that ...? 「。。。」っていう理解で間違っていない?

8) Remark Sidetrack, Endless Loop, No-agreement 議論が收拾のつかないとき

I'm afraid we are sidetracking the proposition. ちょっと論点がずれてきてるぞ。

We are in an endless loop. もう堂々巡りだね。

I'm sorry, but we cannot reach an agreement on this issue. この点に関しては平行線だね。

資料4 平成28年度後期「生徒指導論」の英語ブレインストーミングの進行方向 台本

平成28年度「生徒指導論」配布資料(2016. 12. 1-2)

Protocols for brainstorming ブレインストーミングの進行方法

1) Start: 開始時の司会者の台詞

CHAIR: Good evening. I'm chair of today's brainstorming. And, these are in charge of writing on the blackboard. They also participate the brainstorming. The problem for the brainstorming is "what is happiness?" Our mission is to list up all the prerequisites (必須条件) of happiness, requirements (必要事項), or other conditions (その他の条件) that are strongly related to happiness.

Four rules: 四つのルールの説明

CHAIR: You can speak out any idea at any time. The writers will write every idea presented by the members. There are four important rules in brainstorming. First, wild ideas are welcome. Please express unique and unusual ideas. (奔放な発想、とっぴな意見をできるだけ多く出す。)
You don't worry about being criticized by others, because the second rule is NO criticisms. (批判厳禁) The members should not criticize no matter what a strange idea expressed by a member (どんな意見も受入れ)
The third rule is "quantity over quality." (質より量) The number of ideas matters, not the quality. (数で勝負する。量の中から質の良いものが生まれる) So, please think as many ideas as possible.
The fourth and last rule is "let's steal other's ideas." (他人のアイデアをパクれ) Combine and improve the ideas presented by the other members. (他人のアイデアを組み合わせたり、発展させたりしよう)

2) Brainstorming Time (50 min)

CHAIR: Now, we start the brainstorming. Please speak up any idea. The writers, please stand-by.

【アイデアの出し方】

Member A: I think we need money to become happy.
Member B: I feel happy when I eat a delicious food, like ice cream.
Member C: Yes, I like ice cream, too. A vanilla cup of Haagen-Dazs makes me extremely happy.
Member D: I feel happiness when I go to bed after having worked or studied hard.
Member E: Now, I'm living alone in an apartment. I feel happy when I go back home during the holidays. I look forward to the Winter break when I go back to Nagano.
Member F: I'm afraid it is a strange idea, but I love cats. For me, I cannot think of a happy life without cats.

【褒め方】

A brilliant idea. I agree. I couldn't agree more! It's a great idea. You are fantastic of noticing it. It's unique. I like it. Marvelous. That's what I thought. You got a nice point. You hit a point. I think you are right! Yes, that's what we need. It's not bad at all. It's provocative but I like it. It is a precious idea. It's gorgeous!

【発展のさせ方】

Member C: Yes, I like ice cream, too. A vanilla cup of Haagen-Dazs makes me extremely happy.
Member G: Member F's idea reminds me of dogs. I think any kind of pets is necessary to happiness.
Member H: Money is important, so is love.
Member I: There are at least two types of love; mother's love and romantic love are different.
Member J: And, we need both for being happy.
Member A: On behalf of all the fathers, I must say father's love is also important.

【英語がわからない時】

Member C: How do we say "名誉" in English?
Member G: I think "生きがい" is important for happiness, but I don't know the corresponding English word.

3) Ending: 終了

CHAIR: Now, we come to the end of brainstorming. Please choose eight items from the list on the blackboard. (ブレインストーミング終了。黒板のリストから各自8項目を選んで用紙に転記。)